

C

[illegible]

--

[illegible]

問7 ―④「ばかげたこと」とは何を指しますか。次から選び、記号で答えなさい。

ア スイッチを押すだけで面倒な仕事を片づけてくれる機械があるのに、手間をかけること。

イ 特別なことをしなくても、何百年にもわたってほぼ安定した環境を保っていたこと。

ウ 汚染するのにも汚染を取り除くのにもエネルギーを使うこと。物質的に豊かでひまになっても、人間は精神的には向上しないこと。

問8 この文章で筆者が最も述べたかったこととして適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 人間が精神的に向上するためには、物質的に豊かになることである。高度な文明社会になれば、ややこしい問題が起こるのは当然のことだ。

ウ 豊かなエネルギーによって、環境だけではなく人間まで汚染された。現代文明にどっぷり漬かっているとありがたみを感じなくなる。

□ 次の文を読み、あとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。
(設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。)

さつきは転校先の学校で、同級生の理子に誘われてスキージャンプを始める。さつきはみるみるうちに力をつけ、初めての人会で、一位の理子、二位の甲斐選手に続く三位となった。次は三回目の大会の場面である。

「見ている人がいまいが、飛ぶときは自分だけだよ」

力づけるつもりでそう言ったら、さつきは（ A ）と目をつぶってから大きく傾いた。

「そうだよね、理子。ありがとう。行ってくる」

板を肩に担ぐさつきの背が、（ B ）と伸びた。その後ろ姿に、理子は微笑む。

(今日はどんなジャンプをするんだろう)

さつきが入団したころ―それこそ八メートルや二十六メートルの台で練習していたころは、そう思う心の中に、『楽しみ』しかなかった。

(でも今は違う)

「ねえ、理子さん」

話しかけてきたのは、理子の前に飛ぶ甲斐選手だった。「あの室井さつきさんって、本当にジャンプやり始めてから、七カ月くらいしか経ってないの？」

降り注ぐ盛夏の日差しにも、甲斐選手の顔はどことなく暗く、おびえているようにも見えた。

「そう。去年の十二月から始めたばかり」

肯定すると、①甲斐選手は右手の親指の爪をかんだ。

「そうなんだ……」

また一人選手がアブローチを滑り降りていく。十六メートル五十というアナウンスと、独特のファンファーレみたいな音楽が響き渡る。

「本当は、ひそかにやっていたとかじゃないの？」

理子は ② ③ 。

「それはないと思う。さつきは転校生で、それまではこの札幌市で暮らしていたの。札幌市の少年団にさつきはいた？」

ジャンプは個人で挑める競技とは違う。やるならどこかの少年団に所属するはずだ。

「うちにはいなかった。うん……④頭ではわかっていたんだ。大会でも見たことないし」

ことに女の子の場合、スキージャンプはメジャースポーツとは言い難い。

競技人口が少ないために、選手は本州のチームにいうと大体顔見知りのだ。この札幌市の大会にも、東北や長野から選手が来ている。逆にスケジュールと予算の範囲内で、沢北町ジャンプ少年団の子どもたちが本州の大会に遠征することだってある。

『十三番 室井さつき選手 沢北町ジャンプ少年団』

(さつきの出番だ)

理子はスタートゲートに出てきた少女の姿を、一心に見つめる。ゲートに座った状態で、一度大きく深呼吸したのがわかった。

理子の首筋を、風が（ C ）と吹き抜ける。

と同時に、さつきはゲートからスタートした。※アブローチを滑り降りるスピードは一瞬ごとに上昇し、（ D ）という音が理子の耳に残った次には、さつきはもう※カンテから飛び出すところだった。

④今までに飛んだ誰より、接地の音は遅く届いた。

『二十一メートル』
どよめいたのは、※ランディングバーン周辺にいる観客だけではなく、アブローチ脇で待機している理子たち選手も、記録のアナウンスを聞いてざわめいた。

「すごいね、今日も二十メートル越えたよ」

興奮した声で、順番を待つ選手の誰かがそう言った。

甲斐選手がまた爪をかんだのを、さらにはその手が震えているのを、⑤理子は見えないふりをした。

(乾ルカ「向かい風で飛べ!」)

※アブローチ：ジャンプ台のスタートゲートからカンテまでの助走路。

※カンテ：ジャンプ台の先端にある踏み切り台。

※ランディングバーン：着地後の滑走路。

問1 （ A ） （ D ）に入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア	A	ザツ	B	きりつ	C	さらり	D	ぎゅつ
イ	A	ぎゅつ	B	さらり	C	きりつ	D	ザツ
ウ	A	ぎゅつ	B	きりつ	C	ザツ	D	さらり
エ	A	ぎゅつ	B	きりつ	C	さらり	D	ザツ

問2 この文章の季節はいつか。季節を表す言葉を文章中から一語で抜き出なさい。

問3 ―①「甲斐選手は右手の親指の爪をかんだ」とあるが、このときの甲斐選手の気持ちとして適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ジャンプを始めて間もないのに、自分よりも理子と親しく話しているさつきに嫉妬している。

イ 理子からさつきについての情報を聞き出そうとしたが、理子が本当のことを言わないのでいらだっている。

ウ 短期間で選手として成長しているさつきの存在を強く意識し、試合で競い合うことに不安を感じている。

エ 自分の出番が迫ってきて緊張していることを理子に気付かれないように隠そうとしている。

問 4 ー②ーに入る言葉として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア につこりと微笑んだ
ウ そつと目をそらした

イ 首を横に振った
エ 手で耳を覆った

--

問 5 ー③ー「頭ではわかっていた」について、次の各問いに答えなさい。

(1) 甲斐選手はどのようなことをわかっていましたか。次の文の空欄にあてはまる語句を、本文中から抜き出して答えなさい。

・(三字) が、ジャンプを(六字) であること。

--	--	--

--	--	--	--	--	--	--

(2) この言葉に込められた甲斐選手の気持ちとして適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア どうしても信じられない。
イ 本当かどうか疑わしい。
ウ やっぱり思ったとおりだった。

--

問 6 ー④ー「今までに飛んだ誰より、接地の音は遅く届いた」とはどのようなことを表しているか、三十字以内で答えなさい。

問 7 ー⑤ー「理子は見ないふりをした」のはなぜですか。「プレッシャー」という語句を用いて、五十字以内で答えなさい。

問 8 この文章の特徴について、誤^{あやま}っているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 実際に話している言葉と、心の中で思ったことを、記号を使って区別している。
イ 言葉や表情だけでなく、動作にも登場人物の心情が細かく表現されている。

ウ 試合の進む様子が聴覚的な表現で描写されている。
エ 場面を転換するときには日差しや風といった情景描写を効果的に用いている。

--

問 9 次の各文の傍線部について、正しい敬語表現に直しなさい。

1 先生、明日は何時に学校に来ますか。
2 わたしは、佐藤大輔と言います。
3 おいしくて全部食べてしまいました。
4 母が留守なので、わたしが代わりに聞きます。
5 あの映画はみましたか。

1

2

3

4

5

問 10 次の各文の傍線部について、正しい言い方であれば○を、誤っているものは正しい言い方を記しなさい。

1 あの草刈り機を使えば、芝も刈れる。
2 数が足りないので、みんなに分けない。
3 このカメラなら、子どもでも簡単に写せます。
4 人ごみの中で友だちを見つけれらるだろうか。
5 シャツくらいなら、自分でも洗える。

1

2

3

4

5
